

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>上位目標：カトマンズにおける児童労働の予防及び削減のための環境が改善する。</p> <p>以下「(3) 達成された成果」にある通り、市だけでなく各区にも児童保護委員会が設置され、着実に行政が機能してきている。また、キャンペーンなどにより、一般社会の児童労働に対する認識の変化があり、以上から環境が改善しつつあると判断できる。</p>
(2) 事業内容	<p>カトマンズ盆地内にある3つの市、カトマンズ、ラリトプール、キルティプールの行政能力強化を目指した活動および、雇用主側、一般市民への啓発活動を通じて、小規模レストラン、茶店における児童労働削減を目指した事業を2011年11月よりN連事業として実施している。今年度の具体的な活動は、以下の通り。</p> <p>1. 児童保護委員会（CPC）による児童労働モニタリング活動の実施とソフト支援</p> <p>3市に設置された市の児童保護委員会（MCPC）、区の児童保護委員会（WCPC）による児童労働のモニタリングが定期的に継続して行われるように支援した。ソフト支援としては、CPCがレストランや茶店のモニタリングを主導して行えるよう報告作成の補助を行った。</p> <p>加えて、モニタリング・ガイドラインの策定や経験共有を通じてのWCPCの設置支援を行ったほか、カトマンズ市では子ども全般に関するプログラムの中長期的戦略がなかったため、中期戦略策定のためのワークショップの開催、子ども全般に関するプログラムの中期戦略（5カ年）作成に協力するなど、CPCの持続性を高めた。</p> <p>市役所職員およびCPCメンバーを対象にした子どもの権利を学ぶ研修や、事業終了後も自ら児童労働に関する啓発キャンペーンの企画、実施ができるようになるための研修を実施した。</p> <p>2. 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン</p> <p>児童労働、特にレストランで働く子どもに対する社会的な関心を喚起することを目的とした啓発活動に取り組み、133名のボランティアがこれに参加。また、児童労働解消を呼びかけるリーフレット及びポスター作成、レストランや茶店への配布と掲示、チャイルド・ヘルプ・ライン（後述）の番号掲載、働く子どもが電話相談できるよう周知を行った。また、児童労働をテーマとしたテレビCMを放映し、一般市民を対象に児童労働反対啓発キャンペーンを展開した。</p> <p>児童労働反対世界デーに際しては、大規模行進を行い、一般市民の参加や市民への啓発を行うとともに、児童労働をテーマにした子どもによる詩やエッセーのコンテストなどを実施し、子どもたち自身が自分たちの権利を学ぶ機会を提供した。</p> <p>また、雇用主や労働関係団体と子どもの権利や児童労働について理解するための対話集会を実施し、レストランでの子どもの雇用を行わない旨の自主的な行動規範を定めるよう促した。</p>

	<p>3. 緊急救援【自己資金での実施】</p> <p>CWIN はネパール政府からの委託でチャイルド・ヘルプ・ラインを運営している。働く子どもたちの相談に乗るほか、チャイルド・ヘルプ・ラインに連絡の入ったレストランなどで働く子ども、または巡回によって見つかった子どものうち緊急性が高いと判断した場合には、MCPC、WCPC、警察、労働局の担当官、チャイルド・ヘルプ・ラインなどが連携し、子どもの救出、保護活動を実施した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1. CPC による児童労働モニタリング活動</p> <p>期待される成果：CPC による児童労働モニタリング活動が定期的に行なわれる</p> <p>指標 1：活動地域 3 市において定期的なモニタリング活動が定着し、それぞれの CPC で年間 11 回のモニタリングが行われる。</p> <p>→モニタリングの回数は 3 市で合計 12 回実施(カトマンズ市 5 回、ラリトプール市 6 回、キルティプール市 1 回)されたほか、合計 21 回の MCPC 定期会合が開かれた。カトマンズ市では合計 31 回 WCPC 会議が実施された。こうした活動を通じ、子どもの権利の促進と児童労働防止の取り組み（キャンペーンによる啓発、仕組みづくりなど）を行なうという、CPC 本来の役割が機能するようになった。</p> <p>指標 2：モニタリング・ガイドラインが策定される。</p> <p>→ラリトプール市においては、子どもの権利のモニタリング・マニュアルが議会を通過し、児童労働モニタリングの仕組みづくりが進んだ。</p> <p>その他、児童労働削減に取り組む仕組みづくりとして以下の成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ラリトプールにある 22 すべての区において WCPC が設置された。またカトマンズ市においては、35 区のうち 16 の区（うち 5 区が支援をおこなった区）で、WCPC が設置された。これにより、きめ細かなモニタリングが可能となった。 ● カトマンズ市では 6 月に中期戦略をまとめ、児童労働削減へ向けて行政の体制が強化された。 ● それぞれの市が CPC の会議に各四半期あたり 4,000 ルピーの予算措置を行うようになった。 <p>2. 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン</p> <p>期待される成果：カトマンズ盆地内に住むレストラン経営者、一般の人々の間で児童労働および子どもの人権についての問題意識が高まる。</p> <p>指標：活動地域 3 市のレストラン約 4,000 軒のうち、7 割以上が声明文への署名と張り出しに協力する。</p> <p>→署名・張り出しはボランティアに協力を呼びかけて実施していたが、店主から暴力を受けそうになるなど危険な事案が見られたため、活動を一部修正し、少数のボランティアで街中を回る活動は回避することとした。こうしたことから、当初設定した指標は達</p>

成できなかったものの、レストランやホテルの労働組合によって行動模範が策定され、雇用主からも子どもを雇わないなどの約束を取り付けた。結果、事業開始前と終了後に実施した調査で働く子どもの数を比較すると、開始前は 168 カ所のレストランに 132 名の働く子どもをレストランで発見したが、その数が 30 名に減少しているなど、経営者の意識が変わってきていることがわかる。

その他、モニタリングに関する以下の成果が見られた。

- カトマンズ盆地内にある活動地域 3 市とその他の 2 市を含めた 5 市が合同で、2014 年 6 月 11 日に「児童労働のない都市 (Child Labor Free City)」をめざすことを宣言した。また、新聞などのメディアに記者会見を行った結果、ゴルカ・パトラなど 3 つの主要な新聞に取り上げられた。
- ライトプール市においては、児童労働反対に向けて「緑の旗を掲げる運動」キャンペーン(児童労働を行っていない場所に緑の旗を掲げるもの)を実施。2 つの区でモデル事業として開始され、この動きは、今後拡大して継続される見通しとなるなど、行政とともに一般市民に対する啓発キャンペーンを行った。
- 「児童労働反対世界デー」に行った行進では、市民、学生、政府関係者など約 6,000 人が参加。子どもによる詩、エッセーコンテストでは、100 名以上がこれに参加した。
- 2014 年 12 月に約 2 週間、3 市の協力を得て、学校にて子どもの権利と保護に関する啓発プログラムを行い、チャイルド・ヘルプ・ラインの啓発も行った。21 校 2,061 人の生徒がこのプログラムに参加し、広範な啓発につながった。
- 児童労働に関する情報、知識、経験を共有するための冊子を作成、配布した。また、児童労働の現状をより多くの人に知ってもらうため、ドキュメンタリー映像を作成した。

3. 緊急救援

期待される成果：虐待を受けたり、劣悪な労働環境で働かされたりしている子どもたちが救出される。

指標：市の CPC のもとに救出委員会が設置される(カトマンズ、ライトプール)

→CPC の中でモニタリング、レスキューの仕組み作りが進んでおり、12 名の子どもの救出が救出された。なお、第 2 年次の救出数 35 名から減っているが、これは劣悪な状況に置かれている子どもの数が減ってきているためである。

(4) 持続発展性	<p>前述の通り、ネパールの政策上、なされて然るべき行政の児童保護委員会の設置および活動が継続的に行われるようになり、3市ともに「児童労働のない都市」をめざすことが宣言された。カトマンズ市においては、子どもに関する事業の5カ年計画が作成されるなど、この後も継続的に児童保護委員会による児童労働削減の活動が続けられる体制ができている。カトマンズ盆地以外の9市に対しても、MCPCの成果の共有ワークショップを行い、国レベルにも広がるような働きかけを行っている。</p> <p>児童労働啓発キャンペーンを行ったことで、市やCPCにキャンペーンの企画や運営のノウハウが蓄積され、また一方では、一般市民の中でも児童労働が法律違反であることが浸透してきており、多くの市民が行進に参加してくれているなど、共に活動する市民が増えている。</p> <p>また、パートナー団体CWINと3市は、本事業終了後に彼ら独自の事業としてストリートチルドレンと児童労働に関する新たな3カ年プロジェクトを開始し、活動を継続することになっている。</p>
-----------	--